第Ⅳ部

法政大学教職課程・
教職課程センターの報告

２０１８年度教職課程の報告

法政大学における「教師教育」の一層の充実を求めて

～　教職課程センターの有効活用と望ましい連携のあり方を探る　～

教職課程センター(市ヶ谷)相談指導員
笠谷　一夫

はじめに

東京六大学の雄として、総合大学として、その伝統と規模を誇る法政大学は近々創立 140 周年を迎える。

「自由と進歩」を基礎に 15 学部を擁する大学は、各学部の専門教育はもとより、戦後は開放制のもと、全国に教職の徒を輩出してきた。教員養成大学ではない大学の性格上、一定の制約とともに逆にメリットも多く上げられる。

大学ＨＰには、本学の教員養成の理念について、次のように述べられている。

「2016 年 4 月に制定された「法政大学憲章」を踏まえ、教員として「自由を生き抜く実践知」の土台を形成するために、学生諸君を指導し支援することです。・・(中略)・・それは、「法政大学憲章」が謳う、「地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく健全な批判精神をもち、社会の課題解決につながる『実践知』」を、子どもの発達や学校段階に応じて育成する営みということができるでしょう。・・(中略)・・　こうした大きな責務を担うための人間性や専門的力量は、教員として生涯研鑽して獲得すべきものですが、その基礎や土台は大学 4 年間の意識的で計画的な教職課程の履修、それに教職をめざす大学生としての日々の多様な学びや活動によって獲得すべきものです。」

さらに、教員養成の質の向上に係る取り組みの一つとして、「開放制の教員養成システムの中で、その利点を生かすと共に、教職を目指して必要な知識やスキルを身につけるための「意識的」「計画的」「共同的」プログラムを提供する教職課程センターを立ち上げ、相談指導活動を展開。」の目標のもと、2015 年度教職課程年報の報告に、以下のような一文がある。

『　・・2012 年度に教職課程センターを立ち上げ、3 つのキャンパスに教職課程の教職相談指導員を配置して、学生への日常的な指導、援助体制を整備してきたことは、大きな前進であった。・・それらの前進を踏まえつつ、さらに今後のより充実した教員養成と、学生のより意識的な教職課程履習への主体性を引き出すための課題は、次のような点にある。

・・法政大学では、3 つのキャンパスで教員養成が行われているが、教員養成を主要な職務とする専任教員の配置や、教職課程センター活動の充実などを含んで、3 キャンパスで同じような教職課程のサービスが受けられるように、さらなる改善を進めていく必要がある。3 キャンパスでの教職課程センター、各相談室の教職相談指導活動も、未だ開発途上であり、それぞれのキャンパスの学生のニーズに合ったものへと高めていく必要がある。

・・教育職員免許法の改変も視野におきつつ、教職課程の履修と学生への指導のあり方を、いっそう系統的なものへと改善していくとともに、教育実習や介護等体験実習などに見られる個別の必要に対応して、ていねいに指導と援助をしていく体制を整えることが課題となっている。

・・教員採用試験への学生の意識的な取り組みを励まし、教員採用合格者数を増やしていくことも大きな課題である。そのためには、教員採用試験に対する学生の意識的、系統的な取り組みと、その努力に寄り添って援助する大学の支援体制が不可欠である。各キャンパスにおける教職相談指導活動の一つの力点はそこにある。そのため、教員採用試験（二次試験）対策講座、教員採用試験合格者の体験を聞く会、さらには教員採用試験をめざしての共同学習会の組織化などに取り組んできたが、今後いっそうの充実を図りたい。またそのためにも、法政出身の現職教員の支援ネットワークを豊かに組織していくことが大きな課題である。』

これらの理念や提言、課題にもう一度立ち返り、将来を見据えながら現状の問題点を直視していく必要がある。さらに、より前向きに今後の方向性について検討する必要があるのではなかろうか。

ここ2年余りにわたる私自身のセンターにおける基本方針は、

○「学生への日常的な指導、援助体制の整備を一層推進し、学生のより意識的な教職課程履修へ主体性を引き出していく」のもと、

1　教職志望者への意識の高揚を図り、個別の必要により対応するため、教職センターからのガイダンス＆カウンセリング体制を充実発展させる。

2　教員採用試験合格者増加に向けた取り組みを強化する。

3　各キャンパスで同じようなサービスが提供できるよう、それぞれのニーズに合った相談指導活動の充実を図るとともに、合同行事・イベントの開催も視野に入れた検討を進める。

4　法政出身の現職教員や各部門、関係者との支援ネットワークの整備を図る。

以上を具体的な重点事項と定めた。

しかしながら、まだ道半ばであり、特に4に関しては充分とは言えない。不十分な部分は今後に期待するとして、ここまでの本学の教職課程センター（市ヶ谷）を中心として、昨今の現況と今後の課題について、概観してみたい。

1　現状と今後の課題　～全体的な取組みと対策～

本年度7年目を迎えた教職課程センターの学内外における認知度は年々徐々に高まっており、学部生はもとより院生や通信教育学部生、さらに卒業生などからの相談と、利用者のニーズも多様化している。

一番のユーザーは来年採用試験を受験する3年生ではある。が、その3年生たちの中にも民間会社にするかどうか、就活と教員採用試験との板挟みで決めあぐねている学生が多く見られた。二次試験対策の基盤を強化するため、当初の講座に「自己分析」講座等のキャリアガイダンス的な講座を開講したり、全員初回のインテーク面接を実施するなど、「教職キャリア形成」の視点から様々な取組みを行ってきた。将来的には、本学の教師教育や学生の進路の根幹を担う「キャリアデザイン学部」や「キャリアセンター」の持つ機能、ノウハウといったものを共有できるような協働的なネットワークづくりを期待したい。

各3キャンパスにおいても、それぞれの特性や状況に合った取組みの工夫が行われている。相談指導員同士も定期的な会合、交流を持ち、意思疎通を密にしながら、他キャンパスへの出前講座や補助に積極的に出向くなどの成果が出ている。さらに今後に向けた連絡協働体制を強固にしていきたい。

市ヶ谷相談室においては、昨年度後半から大幅に教職関連の講座数とその種類を増やし、時間のかかる二次対策を前倒しするとともに、一人ひとり個別面接を丁寧に行って、各学生の実態把握やニーズをつかみ、補充深化を目的とした相談指導体制を強化してきた。

しかしながら、根本的な課題として、せっかく初めの段階で教職ガイダンスや採用試験ガイダンスを実施しても、特に課業期間中は授業の空き時間に自らの主体性で講座や個別指導を予約するシステムのため、中々参加するタイミングを逸してしまうなど、実施上の難しさが伴う。こちら側も継続的で良質のサービスを提供する上で、基幹的な内容だけでもより多くの希望学生が集えるような小中高の「総合的な学習の時間」ではないが、何らかの全学的なシステムが望まれる所である。同時に、教職に関わる関係の教員（外部指導員を含め）が何らかの形で直接教職希望の学生に指導、接する機会を増やすとともに、相談指導員の複数化や専任化、実務家教員の増員などを通じて、センターのコーディネーター機能を高めることが出来たらと願う所である。

今年度から新たに外部指導員を招請するなど、指導体制の補完を目指して取組みを強化しているが、基本的には学内で全て賄うのが理想である。専任教員、非常勤教員との日頃の交流を深め、お互いの情報交換が密になれば、自ずと人的資源の豊富な大学の良さが発揮されるものと思われる。

2　ネットワークの拡大･拡充と支援の質的充実

昨年、今年と8月末に、この数年間に本学を卒業した若手の教員による「若い教師の会」が行われ、有意義な懇談会となった。このような法政出身の現職教員の支援ネットワークの整備をどのように図るか、さらに現役学生への還元をどのように図っていくか、卒業生を招いての講演会やシンポジウム等、今後さらに検討を進めていく必要がある。入学センターが実施している現職教員の懇談会なども開催趣旨が異なるにしても、お互いの情報の共有化、開催内容の検討も連携しながら行う可能性があってもよいのではなかろうか。

また、ここ数年市ヶ谷では公立中・高等学校、私立学校等の授業見学会の開催や学習ボランティア等の紹介を行ってきた。直近の教育現場、学校の生の現状を早い段階から知ることは、学生自身の視野の拡大やモチベーションの向

上にも非常に有益である。一昨年 9 月以降、近隣の公立中等教育学校をはじめ、サポート校や都内公立中学校、本学と高大連携協定を結んだ私学女子中高校など訪問した所は多岐にわたる。自治体主催の学校見学会にも参加し、地域や自治体の違いを参加した学生は体感することが出来た。付属校との連携も大切であるが、外部施設や団体との有益で有機的なネットワーク、特に近隣の公立・私立学校との「高大連携」も今後の地域連携や法政ネットワーク拡充の視点から、その可能性を追求していく必要があるのではなかろうか。

内部の学生同士のネットワークづくりも重要な取組みである。今まで積み上げてきた「教職を目指す自主学習サークル」からさらにタテの繋がりとヨコの繋がりを期待して、今年は合格した 4 年生がチューターとして「教職勉強会」がスタートしている。1 月末現在、継続した活動として定着しつつある。同一教科のグループや必要な目的に応じたグループづくりは「模擬授業」や「面接練習」等だけでなく、一人だけでは出来ない学習効果と新鮮な刺激が得られる効果は大きい。

さらに、教職課程センター内外を通じた情報収集と提供をどのように充実させていくかも重要な課題である。東京都をはじめ近隣自治体の採用試験に向けたガイダンス、説明会等は毎年実施しているが、私学指向の学生の増加や大学院、教職大学院等への進学ニーズもあり、今後さらに情報の収集を充実させ、提示の仕方等も学生の主体性のもとにどう工夫していくか、その支援のあり方についても引き続き検討していきたい。

数年後には、児童生徒数の減少に伴い、教員採用試験をめぐる状況の変化も予想されている。教職課程センターが教職を目指す学生の皆さんの期待に応え、よりサポートセンターとしての機能を発揮するためにも、今後一人ひとりの個性と自主性を尊重しながら、様々な角度からきめの細かい支援をしていく必要がある。

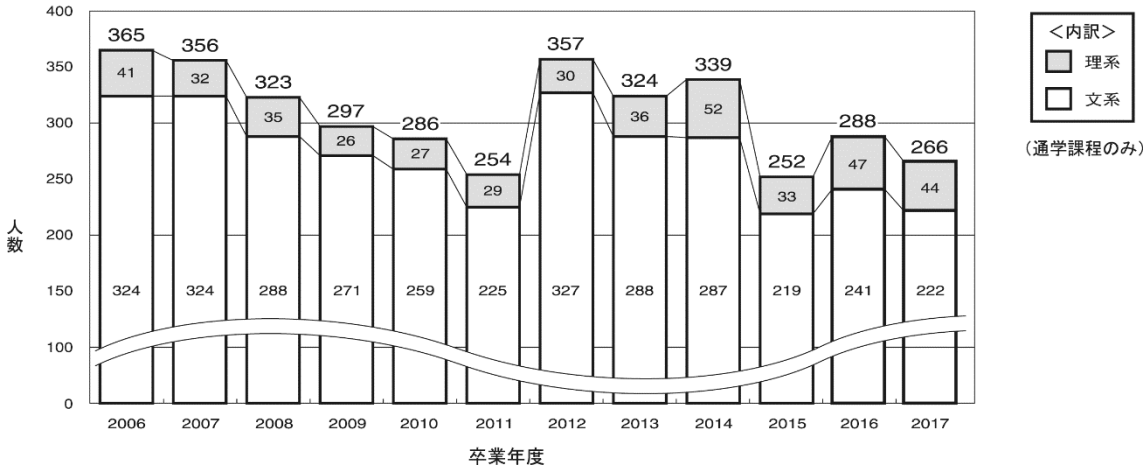
センターが、これからも「教職をめざす学生自身の集大成」の場として発展することを大いに期待したい。

１．教職課程履修者および免許取得者の状況

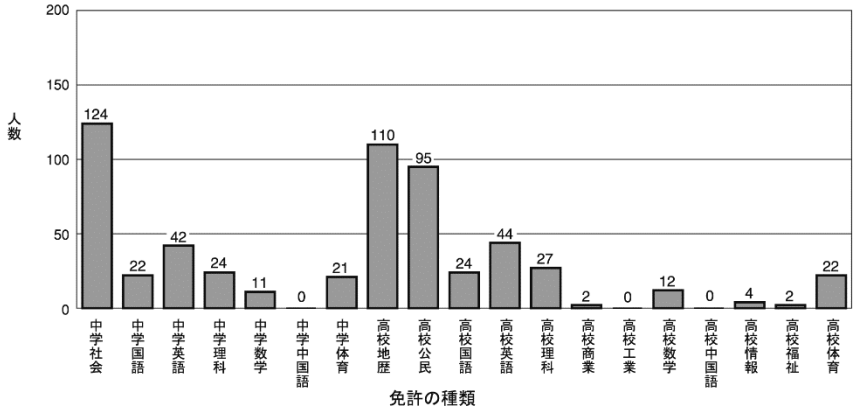
１）免許取得者数の推移

免許取得者数は、2017 年度卒業生では学部生が 266 名、科目等履修生が 3 名、大学院生が 13 名であった（2016 年度は学部生 288 名、科目等履修生 5 名、大学院生 12 名）。この数字は全学部卒業生数の約 4.3%に当たる（図表 3 参照）。教員免許取得者数のここ数年の変化は、下記のグラフのとおりである（図表 1 参照）。教員免許取得者区分の詳細は、＜図表 2＞に示した。2016 年度に法政大学が設置する教職課程の増加（図表 8 参照）があったこともあり、教員免許取得者数は 2006 年をピークに 300 人を超える状況が恒常的に続いていたが、その後は減少傾向で推移した。しかし、2009 年度に新設されたスポーツ健康学部の免許取得を目指す学生数は 100 名近くに上り、2012 年度免許取得者数は大きく増加した。2013、2014 年度はその水準を保ってきたが、2015 年度以降は 300 名を切っている。

＜図表 1＞教員免許取得者数の経年変化（大学院、科目等履修生、通信教育生含まず）



＜図表 2＞2017 年度の教員免許の種類別内訳（専修免許は省略、通教は含まず）



＜図表 3＞法政大学における 2017 年度教員免許取得者数と割合

＜図表3＞法政大学における2017年度教職免許取得者数と割合

	学部	中学一種								高校一種													中学専修							高校専修												件数総計	免許取得者数	卒業生数	免許取得率
		社会	国語	英語	理科	数学	中国語	体育	計	地歴	公民	国語	英語	理科	商業	工業	数学	中国語	情報	福祉	体育	計	社会	国語	英語	理科	数学	体育	計	地歴	公民	国語	英語	理科	商業	工業	数学	情報	体育	計				
文系	法	25	0	0	0	0	0	0	25	21	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	27	847	3.2%
	文	32	22	25	0	0	0	0	79	33	13	24	26	0	0	0	0	0	0	0	0	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175	85	671	12.7%
	経済	11	0	0	0	0	0	0	11	9	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	11	833	1.3%
	社会	22	0	0	0	0	0	0	22	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62	24	757	3.2%
	経営	7	0	0	0	0	0	0	7	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	8	794	1.0%
	国際文化	0	0	16	0	0	0	0	16	0	0	0	16	0	0	0	0	0	2	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	16	293	5.5%
	人間環境	13	0	0	0	0	0	0	13	13	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	14	351	4.0%
	現代福祉	4	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5	216	2.3%
	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	10	0	0	0	0	0	0	10	12	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	12	316	3.8%
	GIS	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	63	3.2%
	ｽﾎﾟｰﾂ健康	0	0	0	0	0	0	21	21	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	22	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	22	160	13.8%
理系	理工（工）	0	0	0	8	11	0	0	19	0	0	0	0	10	0	0	12	0	2	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	23	591	3.9%
	情報科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	126	0.0%
	ﾃﾞｻﾞｲﾝ工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	307	0.0%
	生命科学	0	0	0	16	0	0	0	16	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	17	236	7.2%
小計		124	22	42	24	11	0	21	244	110	95	24	44	27	2	0	12	0	4	2	22	342	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	586	266	6,561	4.1%
	科目等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－	－
	大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	2	0	8	2	1	5	0	0	0	0	2	0	3	13	21	13	343	3.8%
総合計		124	22	42	24	11	0	21	244	110	95	24	44	27	2	0	12	0	4	2	22	342	3	3	0	0	2	0	8	2	1	5	0	0	0	0	2	0	3	13	607	279	6,904	4.3%※

※免許取得率に科目等履修生は含まず

２）教育実習の状況

2018 年度の教育実習実施者数及び実習先内訳は、以下のとおりである（図表 4 参照）。また教育実習実施者数の経年変化は、＜図表 5＞に示した。2017 年度の 323 名に対して、2018 年度は 249 名と大きく減少した。ここ数年の教育実習者数減少の背景としては、教員養成制度が激動期を迎えようとしていることや、民間企業に対する就職活動との兼ね合いなどの社会情勢が考えられる。また、教職課程費の徴収という制度変更の影響もあると考えられる。

教育実習においては、毎年度、実習実施において、一定数の問題が発生していることについて、学生諸君への注意を喚起しておきたい。2018 年度において、教育実習で、直前の中止ないし辞退となった学生は 6 名、実習校による実習評価が C 評価となった学生は 3 名、D 評価となった学生は 1 名であった。

問題となった特徴は以下のようなものである。

（1）実習の規律、特に時間規律や指定されたオリエンテーションなどへの対処がルーズであったり、時には指導教員や実習校の指示を忘れたりするケースである。最初の実習校のガイダンスに無断欠席し、実習中止になるケースもある。時間の約束を守ることは、スムーズな学校運営にとって欠かせないものであり、その点の自覚が足りないものは、実習校にも多大な迷惑をかけることとなる。この点でのルーズさ、社会人としての規律に対処できないものは、実習校に教育実習を受け入れていただく資格がないものといわざるを得ない。

（2）教科の指導力量が不足しているケースである。そのため指導案がきちんと書けない状況になり、ほとんど教壇実習をさせてもらえないままに終了したケースもある。教師を目指すうえでは、そもそも基礎的な学力不足というべきものである。この様なケースのなかには、体育系の部活などを中学や高校でやりたいという意欲だけは鮮明でも、最初から教科の力量をしっかり身につけることをおろそかにしているケースがある。自分の教科の力量についてのきちんとした自己評価ができない状態で教育実習を受けることは許されないと心得るべきである。板書の字があまりに汚い、漢字の間違いが多いなども、しっかり事前に克服しておくことも重要である。また、実習に行く前に、模擬授業を何回か行い、大学教員や友人にコメントしてもらい、授業というもののおよそのイメージを事前に獲得しておくことが不可欠である。それは実習生にとって必須の義務である。

（3）近年多くなっているのが、就職活動との調整がうまくできずに、実習を欠席するケースである。教育実習は、全日程参加が原則であり、例外がないものと心得るべきである。就職のための面接などと競合するときは、教育実習を優先して、就職活動の日程の方を変更することで対応しなければならない。就職活動のため教育実習の欠席を実習校の教員に相談しただけで、実習態度を疑われて実習が中止となるケースも生じている。教育実習を行うということはそれだけの決意を必要とすることであり、多忙を極めるなか教育実習を引き受けてくれる学校や先生方、教育実習を受けてくれる生徒に対する責任という点からも、その点をあいまいにしてはならない。この点に関しては 2017 年度から、一般の職業の選考開始が 6 月となり、まさに教育実習と重なる状況が生じているので、一層の計画的な対処と決意が求められる。

（4）もう一つのケースは、対人関係力において、誠実さや熱意を疑われるケースである。もちろんコミュニケーション力が不足していて失敗をすることは多く見られることである。しかしそれは、誠実に対処することで、自らも成長していく機会とすることができる。最も問題を引き起こすのは、当然の指導の課題に誠実に取り組まないようなケースである。定められた課題や業務をこなさないままにする、正当な指導や注意に誠実に対処しない、きちんとした意思表示をしないで指導を受け止めているかどうかよく分からないなどは、実習校にとって最も困ったものである。さらに、明らかに生徒へ間違った対応をして、実習が中止になるケースもある。生徒の個人情報を漏らさない、学外での生徒との個人的な接触は避ける、人権や人間の尊厳に関わる重大な間違いを犯さないなど、基本的なことであるが、重要である。言うまでもなく、教師という仕事は、自分の言葉、体、表情など身体を含む人格全体を使ってコミュニケーションをとり、他者に働きかけていく職業である。誠実に他者とコミュニケートする心と体を豊かに作り出しておくことが、教師になるために重要であることを、忘れないでほしい。

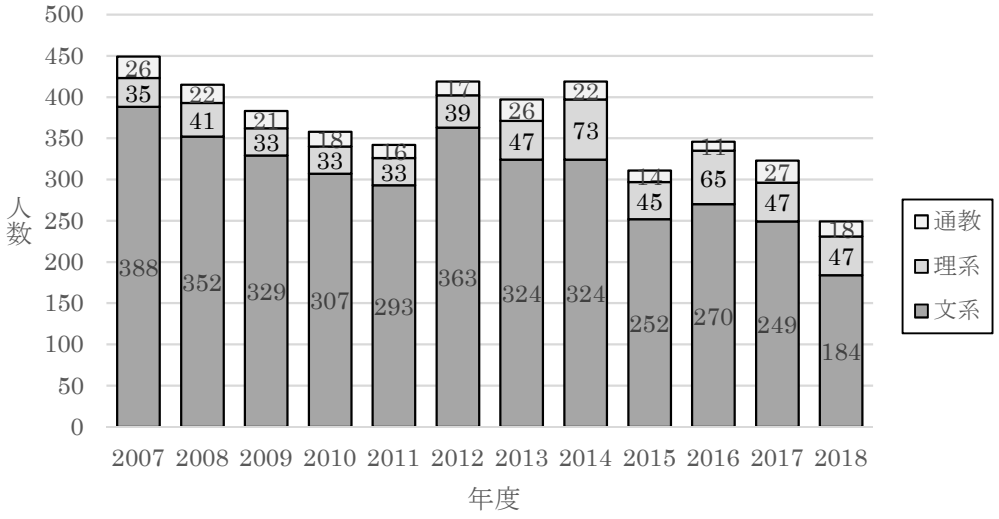
また教育実習を取り巻く環境が年々変化し、厳しくなっている点も留意しておく必要がある。学校現場の困難もあって、教育実習生の受け入れ枠は、むしろ縮小傾向にある。学生自身の出身校であっても、実習生の受け入れ限度（東京都内の公立校の場合、東京都教育委員会が各学校の実習生受入数を教師の数などで判断し、振り分ける）を超える場合、拒否されるケースも見られるようになってきた。そのため、実習を 1 年延期せざるを得ないという事態も起こりうることを念頭に置いて、できるだけ早い段階で、出身校などに打診し、確実な承諾をもらえるように準備する必要がある。更に、教育現場の困難に対応して、教育実習生にも高い能力と努力が求められてきている。そのため、教育実習の評価が厳しくなってきている面もある。教育実習に挑戦しようとする学生は、これらの状況

をしっかりと踏まえ、全力でその準備をする必要がある。

＜図表 4＞2018 年度教育実習実施者数及びその内訳、2017 年度との比較

実習校	文系	理系	通教	計	2017 年度合計数
都内公立学校	14	9	0	23	37
法政大学付属校	18	5	0	23	26
委託校	152	33	18	203	260
計	184	47	18	249	323

＜図表 5＞教育実習実施者数の経年変化



3）介護等体験の実施状況

1998 年 4 月入学生より中学校の教員免許取得のためには、7 日間の介護等体験が必要となっている。そのうち 2 日間は特別支援学校、残りの 5 日間は社会福祉施設での体験となる。介護等体験実施者数は、以下のとおりである（図表 6 参照）。

介護等体験でも、実習態度が問題とされるケースが生じている。遅刻、体験に求められる準備の忘れ、なかには体験中の指示に対する対応が問題となり、最悪の場合は体験中止となった学生もいる。体験規律を守ること、誠実かつ全力を傾けて体験に臨むことが求められている。

＜図表 6＞法政大学の介護等体験実施者数

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
人数	374	293	292	266	539	411	499	385	331	411	384	315

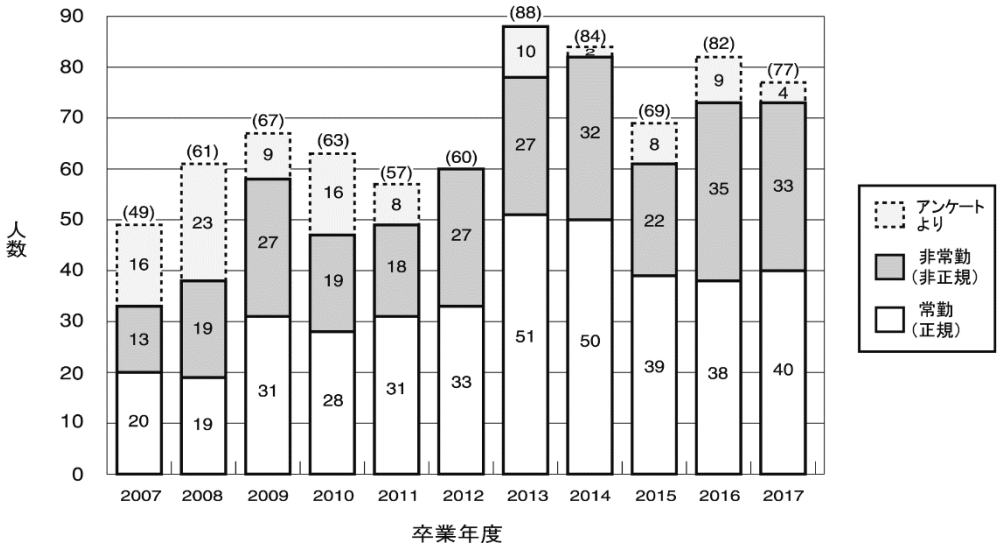
4）インフルエンザ及びはしか（麻疹）等の対策について

はしか（麻疹）の感染による教育実習の中止や延期が、2007 年度に全国的にも大問題となった。法政大学としては 2008 年度から、教育実習生および介護等体験生全員について、はしかの抗体を保持しているかどうかを確認し、免疫保持者および予防接種をして抗体が獲得されたと判断する者以外は実習を受けさせないという厳格な措置を実施した。現在もその措置は継続されている。また、近年新しい感染性の病気の流行も見られるので、各自慎重に予防接種などの対策を講じて、実習に差し支えがないように健康管理に注意する必要がある。

２．教師への採用状況

教職への就職は、基本的には厳しい現状にある。しかし、正規と非正規の採用を合わせて、最新データである 2017 年度では 77 名が採用されている。なお、教職への就職者数及びその経年変化は、大学で把握できている人数としては、以下のとおりである（図表 7 参照）。

＜図表 7＞法政大学卒業生の教職への就職者数の経年変化



なお、グラフの実線部分は、その卒業時の大学としての把握数であり、点線部分は、その後 1 年間のうちに新たに教職に就いた者の数――卒業後のアンケート調査によって把握――を加えたものである。アンケート調査は隔年に実施している。

いわゆる団塊世代の大量退職という動きが始まり、東京都の採用状況を見ると、小学校段階では、採用数が急増し、採用試験の倍率も低い水準にある。中学や高校でも一定の採用数の増加がある。このチャンスを生かすためにも、教員採用へ向けて一層意識的な対策が求められる。なお、本学卒業生のなかにも小学校教員として採用される学生がいる。一つは、小学校教員資格認定試験に合格した者、もう一つは、小学校教員免許状を取得できる他大学の通信教育課程などにおいて、単位を修得したものである。教職に就きたいという熱い思いを実現する一つの有力なルートとしてこれに挑戦する道もある。

また、東京都の各区などで、「学習指導講師」を教員免許を持つものから採用する計画があるとか、教職を目指す学生から学校現場での学習支援ボランティアを募集する動きが多くある。更には、新規採用のなかで、非常勤講師経験者からの採用の比率が高まっているという実態があり、教職に就く一つの機会としてこれらに挑戦してみることも勧めたい。なお、学習支援ボランティアなどの募集情報は、教職課程センターなどでも紹介しているので、利用してほしい。

３．法政大学教職課程の状況

法政大学全体の教員免許取得課程の状況は、＜図表 8＞（法政大学教員免許取得課程一覧表）のとおりである。2019 年度は、法政大学の教員免許取得課程の増設（認可・設置）はなし。一方で教育職員免許法改正のため教職再課程認定を受けることにより、課程の見直しが行われ、国際文化学部ならびにデザイン工学部システムデザイン学科が高等学校一種（情報）を、デザイン工学研究科システムデザイン専攻が高校専修（情報）を取り下げた。これによりデザイン工学部・研究科は教職課程のない学部・研究科となった。

＜図表 8＞法政大学教員免許取得課程一覧表

大学の課程（通学課程）〔2019 年度入学者用〕

学部	学科	中学校一種	高校一種
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
	国際政治学科	社会	地理歴史・公民
文学部	哲学科	社会	地理歴史・公民
	日本文学科	国語	国語
	英文学科	英語	英語
	史学科	社会	地理歴史・公民
	地理学科	社会・理科	地理歴史・公民・理科
	心理学科	社会	公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・情報
	国際経済学科	社会	地理歴史・公民
	現代ビジネス学科	社会	地理歴史・公民
社会学部	社会政策科学科	社会	地理歴史・公民
	社会学科	社会	地理歴史・公民
	メディア社会学科	社会	地理歴史・公民・情報
経営学部	経営学科	社会	公民・商業
	経営戦略学科	社会	公民
	市場経営学科	社会	公民
国際文化学部	国際文化学科	英語・中国語	英語・中国語
人間環境学部	人間環境学科	社会	地理歴史・公民
現代福祉学部	福祉コミュニティ学科	社会	
	臨床心理学科		公民
情報科学部	コンピュータ科学科		情報
	ディジタルメディア学科		情報
キャリアデザイン学部	キャリアデザイン学科	社会	地理歴史・公民
理工学部	機械工学科	数学	数学
	電気電子工学科	数学	数学
	応用情報工学科	数学	数学・情報
	経営システム工学科	数学	数学
	創生科学科	数学・理科	数学・理科
生命科学部	生命機能学科	理科	理科
	応用植物科学科	理科	理科
	環境応用化学科	理科	理科
グローバル教養学部	グローバル教養学科	英語	英語
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	保健体育	保健体育

大学の課程（通信教育課程）〔2019 年度入学者用〕

学部	学科	中学校一種	高校一種
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
文学部	日本文学科	国語	国語
	史学科	社会	地理歴史・公民
	地理学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民
	商業学科		商業

大学院の課程〔2019 年度入学者用〕

研究科	専攻	中学校専修	高校専修
人文科学研究科	哲学専攻	社会	公民
	日本文学専攻	国語	国語
	英文学専攻	英語	英語
	史学専攻	社会	地理歴史
	地理学専攻	社会	地理歴史
	心理学専攻	社会	公民
国際文化研究科	国際文化専攻	英語	英語
経済学研究科	経済学専攻	社会	公民
法学研究科	法律学専攻	社会	公民
政治学研究科	政治学専攻	社会	公民
	国際政治学専攻	社会	公民
社会学研究科	社会学専攻	社会	公民
経営学研究科	経営学専攻	社会	公民・商業
情報科学研究科	情報科学専攻		情報
公共政策研究科	公共政策学専攻	社会	公民
	サステイナビリティ学専攻 ※2016 年度に認可・設置	社会	公民
理工学研究科	応用情報工学専攻		情報
	システム工学専攻	数学	数学
	応用化学専攻	理科	理科
	生命機能学専攻	理科	理科
スポーツ健康学研究科	スポーツ健康学専攻 ※2016 年度に認可・設置	保健体育	保健体育

４．教員免許状更新講習

１）2018 年度講習の実施

今年度（2018 年度）は、以下の日程とプログラムで実施した。実施に当たっては、企画・準備・実施を担うプラン委員会を、3 回開催した。

①必修領域

日　程	内　　容	担当教員	募集数	受講者数
第 4 日 8／2（木）	「マクロ・メゾ・ミクロから捉えた学校と子ども」 （午前）最近の教育政策と学校経営の課題	高野　良一	60 名	65 名
	（午後）社会性や道徳性の発達と支援	渡辺　弥生		

②選択必修領域

日　程	内　　容	担当教員	募集数	受講者数
第 2 日 7／31（火）	「教科横断的な視点に基づくカリキュラム・マネジメント」 （午前）次期学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方－多文化共生を事例として	松尾　知明	60 名	64 名
	（午後）キャリア教育はどこへゆくのか？ －学外連携を中心に－	児美川　孝一郎		

③選択領域

日　程	内　　容	担当教員	募集数	受講者数
第 1 日 7／30（月）	「教育の情報リテラシー」 （午前）教育および社会データの情報検索と活用	田澤　実	60 名	60 名
	（午後）メディアと情報・学校図書館の活用	坂本　旬		
第 3 日 8／1（水）	「生徒指導上の課題から捉える教育の本質」 （午前）主体的・対話的な学びに求められる視点	寺崎　里水	60 名	63 名
	（午後）特別なニーズ教育に求められる視点	遠藤　野ゆり		
第 5 日 8／3（金）	社会科「これからの社会科・地歴科教育を考える」 （午前）生徒が主役になる社会科・地歴科授業の創造	加藤　公明	30 名	35 名
	（午後）シティズンシップ教育としての社会科教育の課題と展望	和田　悠		
	国語科「文学教育（古典・近代）と国語教育」 （午前）文学教育と言語教育、教材としての「小説」	中丸 宣明	30 名	26 名
	（午後）古典文学の魅力を伝える	小秋元 段		
	英語科「コミュニケーション能力を高める英語指導：動機づけ・主体的参加・多文化理解の視点から」 （午前）Building Engagement into Language Activities to Increase Motivation	ウィリアム・スナイダー	30 名	26 名
	（午後）Fostering Intercultural Awareness through linguistic politeness	石原　紀子		
	理科「怪しげな科学情報と科学思考」 （午前・午後）怪しげな科学情報と科学思考	左巻 健男 長島 雅裕	30 名	38 名

2）講習受講者の評価

次に、講習の実績評価として、文部科学省に報告した受講者アンケート結果（受講者評価結果）を掲載しておく。なお、アンケートに記載された具体的な感想やコメントも含めて、この受講者評価については、2018 年 10 月の第 1 回プラン委員会で報告し、委員間で情報を共有した。

2018 年度免許状更新講習受講者評価結果（法政大学）

講習の名称	受講人数	回答者数	評価項目 Ⅰ 講習の内容・方法についての総合的な評価				評価項目 Ⅱ 講習後の、最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価				評価項目 Ⅲ 講習の運営面についての評価				全体平均			
			4 よい	3 だいたいよい	2 あまり十分でない	1 不十分	4 よい	3 だいたいよい	2 あまり十分でない	1 不十分	4 よい	3 だいたいよい	2 あまり十分でない	1 不十分	4 よい	3 だいたいよい	2 あまり十分でない	1 不十分
【必修】マクロ・メゾ・ミクロから捉えた学校と子ども	65人	65人	39人	25人	1人	0人	45人	20人	0人	0人	45人	19人	1人	0人	43.0人	21.3人	0.7人	0.0人
【選択必修】キャリア教育の過去と未来	64人	64人	39人	23人	2人	0人	43人	21人	0人	0人	41人	19人	4人	0人	41.0人	21.0人	2.0人	0.0人
【選択】教育の情報リテラシー	60人	60人	26人	32人	1人	0人	38人	20人	1人	0人	44人	12人	3人	0人	36.0人	21.3人	1.7人	0.0人
【選択】徒指導上の課題から捉える教育の本質	63人	63人	45人	17人	0人	0人	47人	15人	1人	0人	45人	17人	1人	0人	45.7人	16.3人	0.7人	0.0人
【選択】社会科「これからの社会科・地歴科教育を考える」	35人	35人	18人	14人	1人	2人	21人	9人	3人	2人	25人	8人	1人	1人	21.3人	10.3人	1.7人	1.7人
【選択】国語科「文学教育（古典・近代）と国語教育」	26人	26人	19人	7人	0人	0人	23人	3人	0人	0人	20人	6人	0人	0人	20.7人	5.3人	0.0人	0.0人
【選択】英語科「コミュニケーション能力を高める英語指導：動機づけ・主体的参加・多文化理解の視点から」	26人	26人	17人	9人	0人	0人	21人	5人	0人	0人	17人	8人	1人	0人	18.3人	7.3人	0.3人	0.0人
【選択】理科「怪しげな科学情報と科学思考」	38人	38人	22人	14人	1人	1人	22人	14人	2人	0人	21人	17人	0人	0人	21.7人	15.0人	1.0人	0.3人

3）2019 年度実施に向けた講習の設計

第 1 回プラン委員会（2018 年 10 月実施）においては、2019 年度講習の基本設計を議論し、11 月の第 2 回プラン委員会で実施設計を決定し、以下のようなプランを 2018 年 12 月に文部科学省に申請した。

①必修領域

日　程	内　　容	担当教員	募集数
第 1 日 7／29（月）	「マクロ･メゾ・ミクロから捉えた学校と子ども」 （午前）教育政策の動向と学校・学級経営の課題	高野 良一	70 名
	（午後）社会性や道徳性の発達と支援	渡辺 弥生	

②選択必修領域

日　程	内　　容	担当教員	募集数
第 2 日 7／30（火）	「キャリア教育の過去と未来」 （午前）キャリア教育はどこからきたのか？ ―進路指導からの展開と転回―	児美川　孝一郎	70 名
	（午後）キャリア教育はどこへゆくのか？ ―実践課題と本音で向き合う―	筒井　美紀	

③選択領域

日　程	内　　容	担当教員	募集数
第 3 日 7／31（水）	「教育の情報リテラシー」 （午前）教育および社会データの情報検索と活用	田澤 実	70 名
	（午後）メディアと情報・学校図書館の活用	坂本 旬	
第 4 日 8／1（木）	「生徒指導上の課題から捉える教育の本質」 （午前）生徒指導と多様な生徒を捉える視点	松尾　知明	70 名
	（午後）特別な教育的ニーズの支援において求められる視点	遠藤 野ゆり	
第 5 日 8／2（金）	社会科「これからの社会科・地歴科教育を考える」 （午前）生徒が主役になる社会科・地歴科授業の創造	加藤 公明	50 名
	（午後）シティズンシップ教育としての社会科教育の課題と展望	和田 悠	
	国語科「文学教育（古典・近代）と国語教育」 （午前）文学教育と言語教育、教材としての「小説」	中丸 宣明	50 名
	（午後）古典文学の魅力を伝える	小秋元 段	
	英語科「コミュニケーション能力を高める英語指導：主体的参加と協働学習」 （午前）Building Engagement into Language Activities to Increase Motivation	ウィリアム スナイダー	50 名
	（午後）Communicative listening, reading, speaking, and writing activities and theories	石原 紀子	

２０１８年度教職課程センターの報告

１．法政大学教職課程センターの活動

2018 年度で教職課程センターも 7 年目を迎えた。2012 年 4 月の発足とともに、それまでの教職課程教育の体制が抱えていた困難を克服し、教員免許の取得とともに教員採用試験に挑戦する学生への系統的な指導を実施する目的を持つものであった。

センター発足時における課題は以下のようなものであった。

第一に、現在法政大学は 3 キャンパスで教職課程教育を展開しているが、多摩キャンパス、小金井キャンパスにおける教員養成が、市ケ谷キャンパスと比べても、体制的に見て大きな弱さを抱えており、各キャンパスに教職課程センターを設置し、相談指導員を配置することで、改善していくこと。

第二に、全学の教員養成のための教職専門教育についてはキャリアデザイン学部が責任を持つシステムを取っているが、全学の教職課程教育について、統一的な方針の下に日常的な指導を展開していく仕組みが不十分であり、教職課程センターを中心にして、全学的な改善、充実を図っていくこと。

第三に、近年の教員採用においては、教員免許取得に至る教員養成の全過程に対する大学としての意識的、日常的な指導、加えて個別的な指導が不可欠になってきており、教育実習や介護等体験を含めて、日常的な相談指導体制を整えること。

第四に、教員採用試験に合格し教職に就くには、学生自身の意識的な努力､系統的な準備が不可欠であるが、教職課程センターの援助によって、学生の採用試験に向けての意識的な構えを作り、学習会を組織するなど、共同で支え合う仕組みを作り出すこと。

以上の課題は、今もって道半ばであり、改善の到達度には個々に差が見られる。しかし各キャンパスにおけるセンターの役割とその責任は着実に増しており、今後に期待されるものも大きい。

2018 年度もセンター長に高野良一教授（キャリアデザイン学部）、センター運営委員に、児美川孝一郎教授（キャリアデザイン学部）、松尾知明教授（キャリアデザイン学部）、左巻健男教授（教職課程センター）、筒井美紀教授（キャリアデザイン学部）、遠藤野ゆり准教授（キャリアデザイン学部）、寺崎里水准教授（キャリアデザイン学部）、田澤実准教授（キャリアデザイン学部）、平塚眞樹教授（社会学部）、永木耕介教授（スポーツ健康学部）、林園子特任・任期付准教授（スポーツ健康学部）が任じられ､運営に当たった。

また日常的な教職課程を履修する学生への教職相談指導活動を担当する教職相談指導員体制が、2018 年度は、市ヶ谷地区は週 4 日体制、多摩地区週 3 日体制、小金井地区週 3 日体制で展開された。合わせて各センターに事務体制が取られており、センター（相談室）の開室日は市ヶ谷地区週 5 日、多摩地区週 5 日、小金井地区週 5 日となっている。

今年度の相談指導員は以下の方々に務めていただいた。

・市ヶ谷地区：笠谷 一夫、戸塚 吉彦（11 月～）
・多摩地区：高橋 繁、本山 明
・小金井地区：田神 仁

２．教職課程センターの基本性格

教職課程センターは、教職課程委員会が協議承認する基本方針に沿って、法政大学における教職教育のセンターとしての職務を遂行する機関である。具体的には以下のような業務を担っている。

①本学における教職教育の基本方針に沿って、その具体的な内容を計画し、円滑な実施を行う。
②兼任講師を含む教職教育実施のための連絡調整の役割を担う。
③教育実習や介護等体験に資する行事やガイダンス等について実施内容を決定する。
④教職課程履修生が記録する「履修カルテ」を管理し、添削指導を担当する。
⑤教職課程に関する発行物（教職課程年報、教育実習の手引き等）の編集・発行を行う。

⑥教職を目指す学生への日常的な教職相談指導活動、系統的な援助（特別講座や採用試験対策講座などの各種講座の開設）を行う。
⑦現職教員の研修への対応（免許更新制度への対応を含んで）をする。
⑧教職教育、学生の教員免許取得のための学習・研究に必要な書籍、資料などを蓄積し、学生の利用に供する（教職資料および教職課程実習室の管理、運営）。
⑨本学学生の教職への就職等を支援する教育関係同窓生等を含んだネットワークをつくる。
⑩本学の教職教育などに関する研究、調査をする。

3．2018 年度の教職課程センターの活動

1）2018 年度センター・相談室利用者数

(1) 市ケ谷教職課程センター利用者数報告書

教職課程センター利用目的		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
開室日数（A）		20	19	21	21	15	16	23	19	15	17	13	199
センタースタッフ対応人数（B）		572	722	255	276	128	158	251	315	206	152	143	3178
（B）内訳	①教職関連書籍の利用（貸出・返却・閲覧）	65	121	56	49	31	42	89	112	61	64	22	712
	②自主学習グループ予約受付（勉強会・模擬授業等）	1	7	3	5				18	7		1	42
	③センターでの自習	10	42	28	13	17	6	13	35	8	1	5	178
	④個人相談指導の予約受付	50	38	52	39	13	16	37	28	16	5	10	304
	⑤講座・模試・見学会・シンポジウム等イベント予約受付	104	56	25	34	11	23	36	40	49	10	18	406
	⑥その他（上記に当てはまらない窓口対応）	98	92	54	61	21	26	43	30	24	18	26	493
	E-mail 、TEL の問合せ	28	19	17	43	35	28	27	11	10	15	29	262
	① 履修カルテの配布・回収・問合せ	166	351	20	8		7	6	7	1	13	6	585
	② 教職課程費の徴収・問合せ	5	2						1				8
	その他	45	8	0	24	0	10	0	33	30	26	26	202
1日あたり平均対応件数（B／A）		28.6	38.0	12.1	13.1	8.5	9.9	10.9	16.6	13.7	8.9	11.0	15.6
相談指導日数（C）		13	13	13	14	12	14	16	12	8	9	9	133
教職指導人数総数（D）		165	141	27	32	30	33	24	36	20	9	20	537
（D）内訳	①教職課程に関する学習相談	4	7	4	3			2	3	1	1		25
	③ 教育実習・同事前指導に関する相談	2	4			1	1						8
	④ 進路・キャリアに関する相談	9	4	2	3	3	2	3	5	4	2	2	39
	④教採試験に関する相談（教採情報提供/学習以外の事柄等）	6	7	1	2		1	4	5	2		4	32
	⑤教採試験に関する相談（面接/論文/筆記/模擬授業/実技等）	139	18	17	21	26	10	14	12	5	6	14	282
	⑥その他（ボランティア活動/学習グループづくり等）	5	3	3	3			1	11	8			34
1日あたり平均相談指導人数（D／C）		12.7	10.8	2.1	2.3	2.5	2.4	1.5	3.0	2.5	1.0	2.2	3.9

(2) 教職課程センター多摩相談室利用者数

教職課程センター利用目的		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
開室日数（A）		21	19	21	21	10	12	22	21	15	17	15	194
センタースタッフ対応人数（B）		195	145	76	205	16	19	37	68	28	83	30	902
（B）内訳	①教職関連書籍の利用（貸出・返却・閲覧）	5	10	6	23		4	13	10	9	7	4	91
	②自主学習グループ予約受付（勉強会・模擬授業等）	1		1	1			1	1	1	2		8
	③センターでの自習	10		1	5			5	6		1	2	30
	④個人相談指導の予約受付	5	9	3	2		2	2	1	1	1	2	28
	⑤講座・模試・見学会・シンポジウム等イベント予約受付		1	18	28				28	10	5	6	96
	⑥その他（上記に当てはまらない窓口対応）	27	4	15	9	16	8	4	6			5	94
	E-mail 、TEL の問合せ	3	5	7	14		2	5	6	4	9	7	62
	①履修カルテの配布・回収・問合せ	140	115	23	117		2	2	6		41	1	447
	②教職課程費の徴収・問合せ	4	1	2	4		1		2		9		23
	その他				2			5	2	3	8	3	23
1日あたり平均対応件数（B／A）		9.3	7.6	3.6	9.8	1.6	1.6	1.7	3.2	1.9	4.9	2.0	4.3
相談指導日数（C）		11	12	12	14	10	6	13	13	8	9	8	116
教職指導人数総数（D）		66	49	38	53	13	12	53	46	24	22	15	391
（D）内訳	①教職課程に関する学習相談	6	3	3	9	1	2	3	6		1	2	36
	②教育実習・同事前指導に関する相談	2	10	6			1	7	3	5		2	36
	③進路・キャリアに関する相談	10	6	6	5	1	5	10	8	4	3	2	60
	④教採試験に関する相談（教採情報提供/学習以外の事柄等）	5	5	3	1		1	11	4	2	2	2	36
	⑤教採試験に関する相談（面接/論文/筆記/模擬授業/実技等）	5	6	16	14	4	2	9	3	2	9	3	73
	⑥その他（ボランティア活動/学習グループづくり等）	38	19	4	24	7	1	13	22	11	7	4	150
1日あたり平均相談指導人数（D／C）		6.0	4.1	3.2	3.8	1.3	2.0	4.1	3.3	3.0	2.4	1.9	3.2

(3) 教職課程センター小金井相談室利用者数

教職課程センター利用目的		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
開室日数（A）		19	18	20	21	8	14	20	16	16	16	15	183
センタースタッフ対応人数（B）		77	97	20	32	0	3	60	30	15	28	9	371
（B）内訳	①教職関連書籍の利用（貸出・返却・閲覧）	6	17	8	2			2	2	1	3	2	43
	②自主学習グループ予約受付（勉強会・模擬授業等）												
	③センターでの自習												
	④個人相談指導の予約受付	14	29	6	13		1	6	6		7	1	83
	⑤講座・模試・見学会・シンポジウム等イベント予約受付	4	3	4	3			3	11	4	4	5	41
	⑥その他（上記に当てはまらない窓口対応）	8	2	2	5			3	3	4	1		27
	E-mail ， TEL の問合せ	1	1		9								12
	① 履修カルテの配布・回収・問合せ	39	45				2	46	3	5	8		148
	② 教職課程費の徴収・問合せ	5							1				6
	その他								8		5	3	16
１日あたり平均対応件数（B／A）		4.1	5.4	1.0	1.5	0.0	0.2	3.0	1.9	0.9	1.8	0.6	2.0
相談指導日数（C）		12	11	13	14	8	11	13	11	11	9	8	121
教職指導人数総数（D）		155	142	65	119	158	28	61	93	56	71	73	1021
（D）内訳	①教職課程に関する学習相談			2									2
	③ 教育実習・同事前指導に関する相談	4		2	9								15
	④ 進路・キャリアに関する相談		1										1
	④教採試験に関する相談（教採情報提供/学習以外の事柄等）												
	⑤教採試験に関する相談（面接/論文/筆記/模擬授業/実技等）	151	141	61	110	158	28	61	93	56	71	73	1003
	⑥その他（ボランティア活動/学習グループづくり等）												
１日あたり平均相談指導人数（D／C）		12.9	12.9	5.0	8.5	19.8	2.5	4.7	8.5	5.1	7.9	9.1	8.4

2）学生に対する教職相談指導活動

(1) 2018 年度センター・相談室別教職相談指導実施件数

相談員・相談実施日	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
＜市ケ谷＞ 相談実施日：月～木曜日	154	127	59	81	78	33	92	138	78	55	188	1083
＜多　摩＞ 相談実施日：月・水・木曜日	66	49	38	53	13	12	53	46	24	22	15	391
＜小金井＞ 相談実施日：月・火・金曜日	155	142	65	119	158	28	61	93	56	71	73	1021

(2) 市ケ谷教職課程センターの活動概況

◆教職課程センター相談活動（市ケ谷）　週 4 日実施

1）概況

本センターは、教職課程準備室を経て 2012 年度に発足し、丸 7 年を経過した。センターの日常業務は教職相談指導員 1 名と事務職員 3 名により運営されている。また、付属施設として主に教職を目指す学生が自由に利用できる「教職課程実習室」と教育関係及び教職に関する書籍を収納する「ライブラリー」がある。週 5 日間開室され、まさに教職を目指す学生のセンター的役割を担っている。（ただし、教職相談指導員による相談は週 4 日）

2）センターの利用内容

［1］主な教職相談の内容

①進路相談（公立・私立校）・学習相談

②教員採用試験対策（教職教養等の筆記試験・面接・論文・模擬授業対策等）

③各自治体・私学等の採用説明会、学校見学会、合格者の体験を聞く会等の各種ガイダンス

④学習指導案の作成、模擬授業実習（教育実習事前指導及び教科指導法等の授業準備）

［2］ライブラリーで利用できる主な書籍類

①教育関係研究図書・雑誌

②学習指導要領及び教科書（中学校・高等学校全教科）

③教員採用試験関係雑誌

④教員採用試験問題集・参考書

⑤教職関係ビデオ・DVD

⑥教育関係新聞

［3］各自治体及び私立校の教員採用試験や学習支援ボランティア等の情報提供

［4］教職に関する学習スペース（主に教職課程実習室）

3）主な企画事業

［1］自治体ごとの教員採用説明会

各自治体への依頼や申し出により、本年度は東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・川崎市・相模原市・栃木県の担当者が来室し、教員採用試験の概要についての説明が行われた。

［2］「合格者の体験を聞く会」

毎年、自治体や校種・教科などに則して、教員採用試験合格者の体験報告会を行っている。2018 年度は、公立・私立中学校・高等学校の国語・社会・英語によるプレゼンテーション及び校種、自治体、教科、私立、大学院に分かれての質問コーナーを設けて懇談会を行った。

［3］学校見学会

最近の学校現場の教育事情を知るために、希望者を対象とする「学校見学会」を 2 回行った。見学先は、九段中等教育学校と和洋九段女子中学高校。見学会では、各教科の授業参観、当該校の校長・副校長による学校紹介、学生による質疑、地区道徳教育研究会への参加などを行った。

［4］教員採用二次試験対策講座

各自治体の一次試験終了後、外部から面接官を招へいし、本番と同様の形式で「個人面接」「集団討論」「模擬授業」を実施した。本年度は 27 名が参加した。

［5］各種採用試験対策講座の実施

10 月より採用試験対策に向けた各種講座（教職教養・論作文・面接・ボイストレーニング他）を企画実施した。10～12 月（第 1 ターム）・1～3 月（第 2 ターム）・4～6 月（第 3 ターム）の 3 ヶ月単位で受講を募り、申込登録者に向け、系統的継続的な対策指導を行った。特に本年度は 3 月の「授業を創る」特別研究講座の中で初めて英語・国語の外部講師を招請、中等教育学校の現役教員に指導を仰いだ。

［6］学内教職勉強会による教員採用試験・教育実習のための勉強会

2018 年度教員採用試験合格者をチューターとして迎え、12 月に学内教職勉強会を発足。模擬授業、集団討

論、科目別研究会などの活動をしていく予定。2019 年 2 月現在、8 名のチューターと 3 年生を中心とした 18 名が登録し活動している。

4）取り組みの成果と課題

［1］教職を目指す学生の「学ぶ空間」としての教職課程センターの役割の明確化

教職課程センターが設立される前は、教職を目指す学生が集う場所がなく、それぞれ個別に取り組んでいたが、設置されてからの 7 年間において教職課程センターの「認知度」が飛躍的に高まり、利用者数も年々増加している。集う場所としての「教職課程実習室」はもとより、センター内にある「ライブラリー」は、収納している書籍数が増加したこともあり、「学習情報センター」的な役割を果たしている。特に、教育実習事前準備のための模擬授業を行う学生や教員採用試験受験者にとっては不可欠の場所になりつつあると言っても過言ではない。

［2］組織的・計画的な教員採用試験対策が功を奏した合格者の増加

本年度継続して教職課程センターを利用し邁進した学生の多くが、目標の教員採用試験に合格している。同時に教職への意識が高いため、今年初めて行った「学内教職勉強会」では、合格した４年生が中心になってチューターとして３年生以下の学生を協同の精神で牽引している。また４月から教壇に立つ合格者にとっても最後の仕上げとなり、これから受験する者にとっても良い刺激となって相乗効果を上げている。

このような自主的で組織的な取り組みは、個別単位の受験者をこころざしを同じくする仲間として、互いの切磋琢磨や励まし合い、計画的に共に学ぶ良い体験となっている。

［3］卒業生との連携を充実し、「教職を学ぶセンター」への取り組みの充実

東京都をはじめ現在、全国で教員として活躍している卒業生も多いが、未だ大学との十分な連携は図られていない。教職を学んでいく上で今日の学校現場の状況を知ることは極めて重要である。卒業生の時代にはなかった教職課程センターの存在を知らせるとともに、卒業生の経験を伝えていただきながら、「これからの教職の在り方」などについて学べるセンターとしての役割を果たすための取り組みの充実を図ることは今後も継続した課題である。

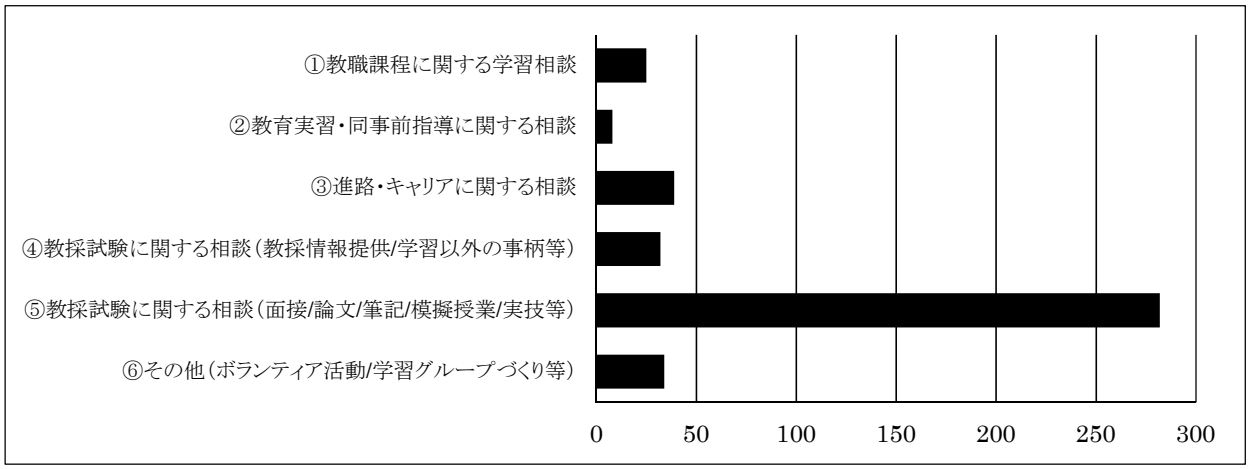
①学部別相談件数（2019 年 2 月末現在）

○法学部	73 人	○文学部	599 人	○経済学部	1 人
○社会学部	15 人	○経営学部	17 人	○国際文化学部	76 人
○人間環境学部	33 人	○キャリアデザイン学部	52 人	○理工学部	10 人
○グローバル教養学部	56 人	○スポーツ健康学部	4 人	○生命科学部	2 人
○大学院	18 人	○通信教育学部	39 人	○卒業生	40 人

計 1035 人

※本学卒業生で通信教育学部在籍者を含む

②相談指導の内容別の統計から（2019 年 2 月末現在）



※2018 年 2 月末現在の集計

※教採試験相談は、試験に関する相談（学習重点、面接・論述・二次の模擬授業対策など）。
進路相談は、受験自治体の選択・私立と公立の選択・併願、免許取得の相談など。

(3) 多摩相談室の活動概況

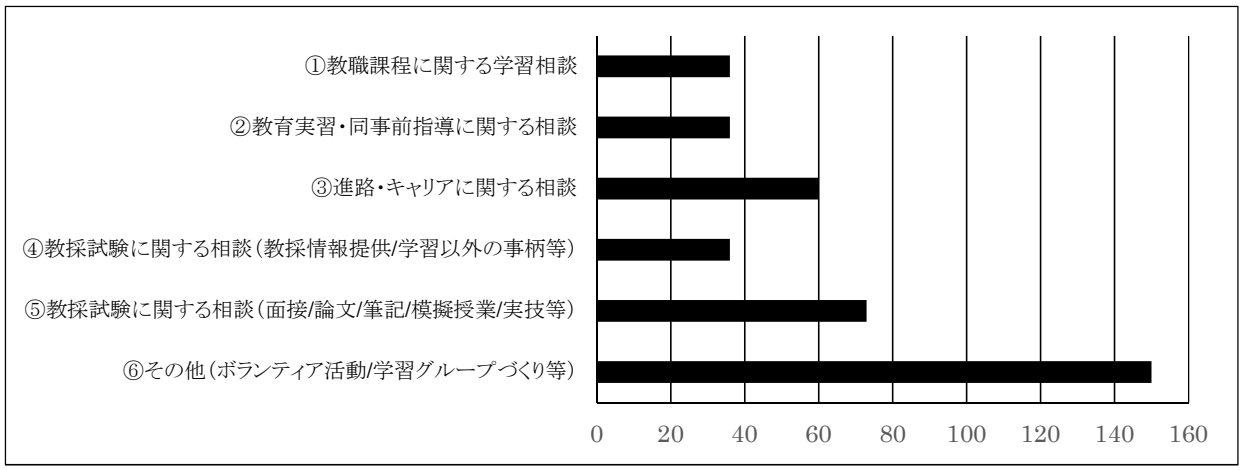
◆教職課程センター相談活動　週 3 日実施

本年度は、社会科（2 名）の相談員が勤務し、活動を行った。日常的な相談業務に加え、2 つの教科ごとの自主学習グループを継続した。採用試験対策や時事問題など、学生たちが互いに課題を持ち寄り、教職に関する理解を深める場をつくった。また、学校見学会に学生を引率し、授業や生徒の様子を見てきた。教員採用試験に向けた対策だけでなく、将来教職に就いてから役立つ知識や技能を身につけ、教育に対する自分の考えが持てるようになることを重視して指導活動を展開した。黒板や図書・DVD などの教材資料コーナーも設置し、学生たちの利用増加になるよう努力している。また、「多摩だより」第 32 号まで発行し、学生への支援と広報につとめている。

①学部・性別相談件数（2019 年 2 月現在）

○経済学部　36 人　○社会学部　155 人　○現代福祉学部　19 人
○スポーツ健康学部　166 人　○卒業生　6 人　○院生 5 人　○科目等履修生　4 人
計　391　人

②相談指導の内容別の統計から（2019 年 2 月末現在）



※教採試験相談は、試験に関する相談（学習重点、面接・論述・二次の模擬授業対策など）。
進路相談は、受験自治体の選択・私立と公立の選択・併願、免許取得の相談など。

(4) 小金井相談室の活動概況

◆教職課程センター相談活動（小金井）　週 3 日実施

2018 年度相談指導人数は 2 月末現在延 1,021 人で、昨年度の 1,129 人とほぼ同程度の相談件数であった。そのほぼ全員が教員採用選考に向けた論作文、面接、講習等の指導を受けに来た者であり、学生の教員採用選考に対する意識の高さが表れている。特に、論文添削や各種講習、面接練習等への参加が、昨年同様極めて多かった。これらに参加した学生の実人数は 1 年生 2 人、2 年生 13 人、3 年生 23 人、4 年生 17 人、大学院生 4 人、卒業生 7 人、計 66 人であり、昨年度の 44 人に対して 50.0%増加した。今年度は、昨年の反省を踏まえ、「合格論文書き方講習」及び論文添削指導を受験する前年の 11 月中旬から開始した。その参加者は 3 年生 23 人、大学院生 3 人の計 26 人で、一人で 33 回もの添削を受けた学生をはじめ、今年度の教員採用選考受験生ほぼ全員に対して一人当たり 15 回以上の添削指導ができた。さらに、受験前年度の 2 月から 4 月上旬にかけて第 1 回個人面接練習、集団討論練習を実施した。その後、教育法規と学習指導要領について筆記試験対策講座を行い、それぞれ延 25 人、30 人が受講した。その結果、7 月の 1 次選考では 21 人中 17 人が合格することができた（合格率 81.0%）。2 次選考に向けての取組では、今年も 7 月に第 2 回個人面接練習、集団討論練習を行い、その効果測定として 7 月末に外部講師による模擬面接を実施した。また、昨年は実施しなかったお盆休み中の直前指導を、今年は他校を借りて実施した。都立広尾高校の学校見学会の後、会議室で個人面接と集団討論の直前練習を行った。しかし、残念ながら、最終選考に合格したのは、わずか 6 人（＋期限付合格 3 人）にとどまった。面接の復元答案を見る限りでは大きな失敗がみられなかったので、敗因としては、個人面接では答えるときの態度や振る舞い、集団討

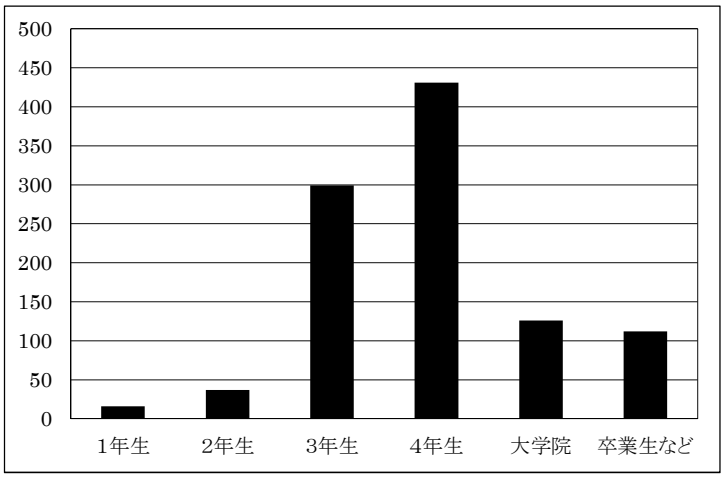
論では他の受験生との関わり方に課題があったものと考えられる。この反省を踏まえ、次年度に向けて、新たに「カリスマ・アナウンサーによる面接講習」を実施し、面接試験に合格するための態度や振る舞い方についても指導することにした。

特に、今年度の 4 月には、入学直後の 1 年生に対して「教職ガイダンス」を、3 年生向けに「介護等体験ガイダンス」における教員採用選考説明を新しく実施し、学生の意識高揚を図った。加えて、論文等の指導時期を大幅に早めた。まずは、「合格論文書き方講習」を 5 月中旬に実施し、3 年生 15 人、2 年生 4 人、1 年生 1 人、計 20 人が参加した。これらの学生に対して、講習翌日から論文の個人添削を始めた。論文講習については、11 月中旬に再度講習を開き、5 月の講習に参加しなかった学生 16 人の参加があった。さらに、11 月に過去問を教材に勉強の仕方を指導する「教職教養講習」も新たに実施した。論文講習では 3 年生 12 人、2 年生 4 人、計 16 人、教職教養講習では 3 年生 7 人、2 年生 5 人、1 年生 2 人、計 14 人の参加があり、2 年生の参加が増えた。それは、相談指導員が担当する秋学期の授業を通して講習等への参加を呼び掛けたことが大きい。また、11 月には都立武蔵中学高等学校の授業見学を実施し、3 年生 5 人、4 年生 1 人、計 6 人の参加があった。今後、2 月～4 月上旬の面接練習は 2 月 19 日の「カリスマ・アナウンサーによる面接講習」から始まり、一人当たり個人面接練習 3 回、集団討論 2 回、希望者対象の模擬授業を実施する予定である。

① 学部・性別相談件数（2019 年 2 月末現在）

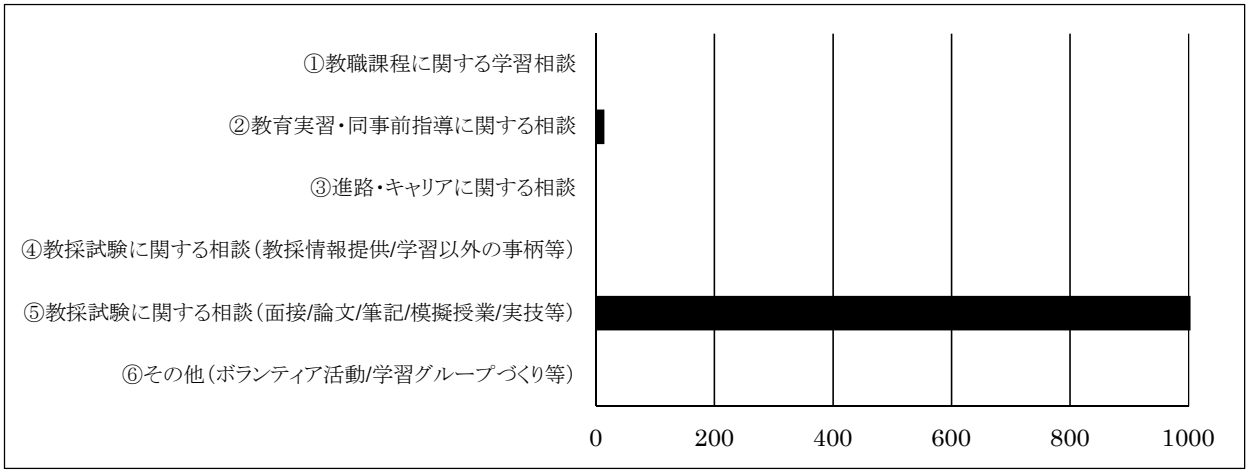
○理工学部	586 人	○生命科学部	189 人	○情報科学部 1 人	○大学院生 117 人
○卒業生	125 人	○科目等履修生	0 人	○文学部 3 人	計 1021 人

② 学年別来室者数から（2019 年 2 月末現在）



延 1021 人の学生が相談指導を受けに来室した。4 年生と大学院生が 548 人であり、教員採用選考における面接練習・論作文添削指導等が多かった。4 月以降 2 次試験終了までの添削論文数は、延 310 枚と、昨年の延 219 枚を大きく上回った。その後、2 月末までに延 374 枚添削を行い、前年度の 317 枚の 18%増となった。その要因は、「合格論文の書き方講習」を 5 月と 11 月の 2 回実施し、3 年生の 5 月から論文添削を開始できたことにある。さらに、相談指導員が担当している授業において周知したことで、昨年は全くいなかった 2 年生の論文添削を行えたことも大きい。

③ 相談指導の内容別の統計から（2019 年 2 月末現在）



昨年度に引き続き、教員採用選考に向けて意図的・計画的な学生支援を目指した。2018 年度教員採用選考向けの「合格論文書き方講習」、「学習指導要領講習」、「教育法規講習」は既に前年の 11 月に終了しており、参加者はそれぞれ 20 人、24 人、36 人であった。その後は個別に論文添削指導を行った。その後、今年の 2 月から 4 月にかけて、2 次選考向けに「面接講習」「個人面接練習」「集団討論練習」「教育実習向け模擬授業」を実施し、参加者はそれぞれ 17 人、延 32 人、延 26 人、延 29 人であった。今年度は、7 月に「面接講習」参加者 6 人、「個人面接練習」参加者延 32 人、「集団討論練習」延 26 人、「模擬面接」15 人を実施した。併せて、相談室だより「こがねい」を毎月発行し、単なるイベントの周知だけでなく、学生の教職への意欲向上及び教員採用選考への支援を図った。

以上、前年度からの更なる量的拡大と 1 次選考に対する指導体制は、概ね構築できつつある。今年度の 1 次選考合格者は前年度を超えたが、最終合格者は前年度並みに留まった。次年度に向けて、2 次選考に対する指導の充実及び成果の向上が課題である。

④　メールによる相談・指導件数（2019 年 2 月末現在）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
件数	9	25	7	23	77	4	1	24	1	36	34	241

今年度は、上記のとおりメールによる相談・指導が 241 件あった。これらは全て、相談指導員による無給ボランティアとなっている。月別に見ると 7 月、8 月が合計 100 件と圧倒的に多い。それは、教員採用選考 2 次試験直前にも関わらず大学が盆休みであることが原因である。今年は 1 次選考合格者が 21 人中 17 人（19 自治体）合格（合格率 81.0%）と多く、この期間に 2 次試験に向けた書類の添削依頼が殺到した。しかし、大学が盆休みであったため、100 件について自宅でのメールによる添削指導をせざるを得なかった。昨年も同様であったので、大学が盆休み中の相談指導活動を認めない限り、この現象は今後も続くことになる。働き方改革が強く叫ばれている昨今、この状況は速やかに改善されるべきであると考える。また、卒業生の多くは非常勤講師等をしているので、平日に大学に来ることはほとんど不可能である。メールによる相談・指導は今後も必要であろう。現役生のメールによる相談・指導実施について現在学生からの意見を集めているが、盆休み中の勤務を認めるなど、早急な改善を強く求む。

（2）の報告については笠谷一夫相談指導員、（3）の報告については高橋 繁および本山 明相談指導員、（4）の報告については田神仁相談指導員がそれぞれ担当した。

3）教職課程センター各種イベント

(1) 法政大学教職課程センターシンポジウム

＜市ヶ谷地区＞

『法政大学の教職課程を語る　～学生はどう変わってきたか、授業はどう変わらなければならないか、教職課程にたずさわる皆様と語り合う会～』

日　時：2018 年 11 月 17 日（土）17:00～20:00

場　所：法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 4F　S406 教室

プログラム

・講演：佐貫 浩（法政大学名誉教授）「現代の大学と学生の性格と課題」

・講演：飯窪 真也（東京大学 CoREF 特任助教）

「私の授業実践から　～すべての受講者が対話を通じて理解を深める学習をめざして～」

・講演：筒井 美紀（法政大学キャリアデザイン学部教授）

「学生たちの腑に落ちるカリキュラム進行　～我々の教職課程が成功していないこと～」

＊参加者数 26 名

＜多摩地区＞

多摩でかたらう 2018

『教師の仕事　～学校は「ブラック」な職場か？～』

日　時：2018 年 11 月 13 日（火）18:30～20：00

場　所：法政大学多摩キャンパス 総合棟 4F　第 3 会議室 AB

プログラム

・教職はブラックなのだろうか（文科省調査結果等より）

・シンポジウム　4 人の教員（卒業生）

・現場へのアドバイス

＊参加者数 約 30 名

(2) 教員採用試験二次対策（個人・集団面接）講座

市ケ谷・多摩・小金井各キャンパスで教員採用試験二次対策講座を開催した。採用試験面接官経験者が講師となり、個人・集団面接（討論）を中心に実施した。

	実施日	延べ参加人数
市ケ谷キャンパス	7 月 26 日・7 月 27 日	27 人
多摩キャンパス	7 月 30 日・7 月 31 日	16 人
小金井キャンパス	7 月 30 日・7 月 31 日	20 人

市ケ谷・多摩に関しては外部講師（面接官経験者）を講師に招いて実施した。小金井に関しては外部講師（面接官経験のある都立高校長経験者 2 人）を講師として実施した。

(3) 教員採用試験合格者の体験を聞く会

市ケ谷キャンパス 参加学生：16 名	2018 年 11 月 17 日（土）　13：30～15：30
多摩キャンパス 参加学生：5 名	2018 年 12 月 14 日（金）　17：30～19：00
小金井キャンパス 参加学生：50 名	2018 年 12 月 8 日（土）　13：20～16：50 （3 年生対象「教育実習事前指導」の授業において実施）

(4) その他の活動

市ケ谷キャンパス

① 教員採用試験ガイダンス

主に１年生を対象とし、教員になるための心構えや教員採用試験についての説明をした。

第１回　2018年４月10日（火）実施　参加学生：24名

第２回　2018年４月11日（水）実施　参加学生：37名

② 学校見学会

第１回　2018年10月27日（土）実施　九段中等教育学校　参加学生：11名

第２回　2018年12月１日（土）実施　和洋九段女子中学・高校　参加学生：11名

③ 一次試験合格者特別対策講座

2018年８月15日（水）実施　参加学生：11名

④ 私学説明会

第１回　2018年８月２日（木）実施　参加学生：13名

第２回　2018年９月19日（水）実施　参加学生：16名

⑤ 「教職教養」対策講座

第１回　2018年４月17日（火）実施　参加学生：24名

第２回　2018年４月18日（水）実施　参加学生：８名

第３回　2018年４月19日（木）実施　参加学生：10名

第４回　2018年５月17日（木）実施　参加学生：12名

第５回　2018年11月５日（月）実施　参加学生：９名

第６回　2018年11月８日（木）実施　参加学生：８名

第７回　2018年11月26日（月）実施　参加学生：10名

第８回　2018年11月29日（木）実施　参加学生：６名

第９回　2018年12月６日（木）実施　参加学生：５名

第10回　2018年12月10日（月）実施　参加学生：９名

第11回　2019年２月４日（月）実施　参加学生：19名

第12回　2019年２月18日（月）実施　参加学生：16名

第13回　2019年２月25日（月）実施　参加学生：12名

2019年３月４日（月）・11日（月）・18日（月）　実施予定

⑥ 「面接（個人・集団）・場面指導」対策講座

第１回　2018年４月24日（火）実施　参加学生：11名

第２回　2018年４月25日（水）実施　参加学生：12名

第３回　2018年５月16日（水）実施　参加学生：12名

第４回　2018年５月18日（金）実施　参加学生：９名

第５回　2018年６月21日（木）実施　参加学生：５名

第６回　2018年７月９日（月）実施　参加学生：６名

第７回　2018年７月12日（木）実施　参加学生：10名

第８回　2018年８月１日（水）実施　参加学生：８名

第 9 回　2018 年10 月 29 日（月）実施　参加学生： 7 名
第10回　2018 年11 月 7 日（水）実施　参加学生： 7 名
第11回　2018 年11 月 12 日（月）実施　参加学生： 3 名
第12回　2018 年11 月 28 日（水）実施　参加学生： 5 名
第13回　2018 年12 月 3 日（月）実施　参加学生： 8 名
第14回　2018 年12 月 19 日（水）実施　参加学生： 6 名
第15回　2019 年 1 月 17 日（木）実施　参加学生：12 名
第16回　2019 年 2 月 13 日（水）実施　参加学生：18 名
第17回　2019 年 2 月 20 日（水）実施　参加学生：17 名
第18回　2019 年 2 月 25 日（月）実施　参加学生：13 名
2019 年 3 月 6 日（水）・12 日（火）　実施予定

⑦　「論作文・小論文」対策講座

第 1 回　2018 年 4 月 16 日（月）実施　参加学生：10 名
第 2 回　2018 年 4 月 23 日（月）実施　参加学生： 6 名
第 3 回　2018 年 5 月 15 日（火）実施　参加学生： 9 名
第 4 回　2018 年 6 月 19 日（火）実施　参加学生： 8 名
第 5 回　2018 年10 月 22 日（月）実施　参加学生： 7 名
第 6 回　2018 年10 月 24 日（水）実施　参加学生： 5 名
第 7 回　2018 年11 月 19 日（月）実施　参加学生： 6 名
第 8 回　2018 年11 月 21 日（水）実施　参加学生： 5 名
第 9 回　2018 年12 月 12 日（水）実施　参加学生： 4 名
第10回　2018 年12 月 19 日（水）実施　参加学生： 1 名
第11回　2019 年 1 月 15 日（火）実施　参加学生：11 名
第12回　2019 年 2 月 13 日（水）実施　参加学生：13 名
第13回　2019 年 2 月 28 日（木）実施　参加学生：11 名
2019 年 3 月 7 日（木）・12 日（火）・28 日（木）　実施予定

⑧　「教採・就活スタートアップ」対策講座

第 1 回　2018 年10 月 15 日（月）実施　参加学生： 5 名
第 2 回　2018 年10 月 18 日（木）実施　参加学生： 4 名
第 3 回　2018 年10 月 22 日（月）実施　参加学生： 4 名
第 4 回　2018 年10 月 25 日（木）実施　参加学生： 6 名
第 5 回　2018 年11 月 12 日（月）実施　参加学生： 4 名
第 6 回　2018 年11 月 15 日（木）実施　参加学生： 6 名

⑨　「ボイストレーニング」対策講座

第 1 回　2018 年 5 月 8 日（火）実施　参加学生： 9 名
第 2 回　2018 年 6 月 28 日（木）実施　参加学生： 6 名
第 3 回　2018 年 7 月 20 日（金）実施　参加学生： 4 名
第 4 回　2018 年 9 月 20 日（木）実施　参加学生： 2 名

第 5 回　　2018 年10 月 24 日（水）実施　参加学生： 2 名

第 6 回　　2018 年11 月 19 日（月）実施　参加学生： 4 名

第 7 回　　2018 年11 月 28 日（水）実施　参加学生： 2 名

第 8 回　　2018 年12 月 10 日（月）実施　参加学生： 5 名

第 9 回　　2018 年12 月 12 日（水）実施　参加学生： 2 名

第10回　　2019 年 1 月 16 日（水）実施　参加学生：11 名

第11回　　2019 年 2 月 22 日（木）実施　参加学生： 6名

第12回　　2019 年 2 月 27 日（水）実施　参加学生： 6名

2019 年 3 月 7 日（木）　実施予定

⑩　「自己分析」対策講座

第 1 回　　2018 年 4 月12 日（木）実施　参加学生： 6 名

第 2 回　　2018 年 8 月 6 日（月）実施　参加学生： 2 名

第 3 回　　2018 年 9 月 18 日（火）実施　参加学生： 4 名

⑪　「模擬授業」対策講座

第 1 回　　2018 年 5 月 9 日（水）実施　参加学生：15 名

第 2 回　　2018 年 5 月 11 日（金）実施　参加学生：18 名

第 3 回　　2018 年 7 月 17 日（火）実施　参加学生： 3 名

第 4 回　　2018 年 8 月 2 日（木）実施　参加学生： 7 名

⑫　「授業を創る」特別研究講座

第 1 回　　2019 年 2 月 4 日（月）実施　参加学生：19 名

2019 年 3 月 4 日（月）九段中等教育学校の英語・国語指導教諭をお招きして科目ごとに実施

多摩キャンパス

学校授業見学会

第 1 回　　2019 年 2 月 4 日（月）実施　参加学生：　3名

（社会科・葛飾区立中川中学校）

第 2 回　　2019 年 2 月 19 日（火）実施　参加学生：　3名

（社会科・学芸大附属世田谷中学校）

小金井キャンパス

【2018 年度教員採用選考対策】

○「教員採用試験ガイダンス」

・3 年生以下の教員採用選考に対する意識高揚を目的として、今年度の新規事業として実施。

・参加者：3 年生 29 名、2 年生 11 名、1 年生 3 名　　計 43 名

○「教育実習向け模擬授業」4 年生等の教育実習対策として、今年度新規に実施。

・延参加者数：4 年生 29 名、卒業生 2 名　　計 31 名

○「学習指導要領復習講座」

第 1 回　5 月 14 日（月）実施

第２回　５月 18 日（金）実施

・１次選考に向けた復習として、新規事業として実施。

・参加者：4 年生 7 名、大学院生 1 名　　計 8 名

○「個人面接指導」及び評価票作成

第 1 回～第 2 回 7 月 9 日（月）実施

第 3 回～第 5 回 7 月10日（火）実施

第 6 回～第 8 回 7 月13日（金）実施

第 9 回～第10回 7 月16日（月）実施

第11回～第12回 7 月17日（火）実施

第13回～第15回 7 月20日（金）実施

第16回　　7 月20日（金）実施

・参加者：4 年生 13 名、大学院生 1 名、卒業生 6 名　計 20 名（延 40 名）

○「集団討論指導」及び評価票作成

第 1 回～第 2 回 7 月23日（月）実施

第 3 回～第 4 回 7 月24日（火）実施

第 5 回　　7 月27日（金）実施

・参加者：４年生 13 名、大学院生 1 名、卒業生 6 名　計 20 名（延 40 名）

○「模擬面接」及び評価票作成

第 1 回～第 3 回 7 月30日（月）実施

第 4 回～第 8 回 7 月31日（火）実施

・参加者：4 年生 13 名、大学院生 1 名、卒業生 6 名　計 20 名

・面接官は、面接官経験のある都立高校長経験者 2 人

○「学校見学会及び研究協議（直前面接練習）」

・お盆休み中の直前面接練習として初実施（1 次試験合格者対象）

8 月 14 日(火)　12：30～17：00　［会場：都立広尾高校］

・参加者：4 年生 9 名、大学院生 2 名、卒業生 5 名　　計 16 名

【2019 年度教員採用選考対策】

○「合格論文書き方」講習及びテキスト作成

第 1 回　　5 月14日（月）実施

第 2 回～第 3 回 5 月15日（火）実施

第 4 回　　5 月25日（金）実施

・第 1 回～第 4 回　参加者　3 年生 15 名、2 年生 4 名、1 年生 1 名　　計 20 名

第 5 回　2018 年 11月 9 日（金）実施

第 6 回　2018 年 11月12日（月）実施

第 7 回　2018 年 11日13日（火）実施

第 8 回　2018 年 12月 3 日（月）実施

第 9 回　2018 年 12月 4 日（火）実施

・第５回～第９回　参加者　３年生 19 名、２年生 11 名、１年生３名　　計 16 名

○「教育法規講習」

第１回　2018 年 ８月27日（月）実施

第２回　2018 年 ８月27日（月）実施

第３回　2018 年 ８月28日（火）実施

第４回　2018 年 ８月28日（火）実施

・第１回～第４回　参加者　３年生 14 名、２年生２名　　計 16 名

○「学習指導要領講習」

第1回　2018 年　８月31日（金）実施

第２回　2018 年 ８月31日（月）実施

・第１回～第２回　参加者　３年生 14 名、２年生２名　　計 16 名

○「都立高校授業見学」　於：東京都立武蔵中学校高等学校

11 月 16 日（金）実施

・参加者　４年生１名、３年生５名　　計６名

○「教員採用選考説明会」

12 月１日（土）実施

・「教育実習事前指導」の授業で実施

・東京都、埼玉県、神奈川県の各教育委員会から講師を招へい

・参加者　３年生教職課程受講者全員　50 名

○「カリスマ・アナウンサーによる面接講習」（初）

・2019 年２月 19 日（火）実施

・参加者　４年生１名、３年生 10 名、２年生１名、１年生１名、大学院生３名、市ヶ谷キャンパス２名　計 18 名

○「個人面接指導Ⅰ（相談指導員が面接）」及び評価票作成

第１回～第２回 ２月22日（金）実施

第３回～第４回 ２月25日（月）実施

第５回～第６回 ２月26日（火）実施

第７回～第８回 ３月１日（火）実施予定

第９回～第10回 ３月４日（金）実施予定

第11回～第12回 ３月５日（火）実施予定

第13回～第14回 ３月８日（金）実施予定

第15回～第16回 ３月11日（月）実施予定

第17回～第18回 ３月12日（火）実施予定

・参加者　４年生１名、３年生 12 名、２年生１名、１年生１名、大学院生３名、卒業生１名　計 19 名

○「個人面接指導Ⅱ（学生が交代で面接官）」及び評価票作成

第１回～第２回 ３月15日（金）実施予定

第３回～第４回 ３月18日（月）実施予定

第５回～第６回 ３月19日（火）実施予定

○「集団討論練習」及び評価票作成

第 1 回～第 2 回 3 月22日（金）実施予定

第 3 回～第 4 回 3 月25日（月）実施予定

第 5 回～第 6 回 3 月29日（金）実施予定

○教員採用選考対策「模擬授業」及び評価票作成

第 1 回～第 2 回 4 月 1 日（月）実施予定

第 3 回～第 4 回 4 月 3 日（水）実施予定

第 5 回～第 6 回 4 月 5 日（金）実施予定

○相談室だより「こがねい」発行

・毎月 1 回、6 月臨時号を含め年間 11 回

４．2019 年度に向けて

教職課程センターの活動を通して、法政大学の教職教育のいっそうの充実を図っていきたい。

第一に、各学年 300 人を超える教職課程履修生に対する日常的、系統的な指導と援助の体制をさらに充実していきたい。それは、教職課程を履修し、教員採用試験の合格を目指す学生にとって、大きな支えともなり、また意識的計画的に､かつ友人や教職相談指導員の支援を得て日々の取り組みを進めていくうえでも大きな励ましとなるだろう。特に、学生がグループを作って、自主的日常的に学びあい、励ましあう関係を組織していくことが重要であり、この点での援助を強めていきたい。

第二に、法政大学の従来の教職課程履修の支援が、市ケ谷地区に比して多摩地区・小金井地区でどうしても弱くなっていた状況があるが、教職課程センター・相談室の三キャンパス設置と個々に応じた工夫と努力により、各キャンパスにおいて同じようなサービスを受けることができるようになってきている。さらなる充実を実現していきたい。

第三に、本学の教員採用試験合格者は、この 6 年間採用数の増加等で若干の波はあるが上昇傾向にある。教職課程センターによる就職支援活動の成果などによって、教職関係就職者数は、系統的な援助体制を組むことでさらに増加の可能性があるので、より着実に取り組みを展開していきたい。

第四に、法政大学の教員養成の向上のためには、法政大学が歴史的に蓄積してきた教育界における様々なネットワークを最大限活用することが非常に重要となっている。教員養成への様々な援助の人材の把握や、就職に関係した情報の把握など、センターが中心となって、新たな支援ネットワークの形成を進めていきたい。

第五に、現在の教職教育にとっては、教育現場との連携を深めることが不可欠になっている。学校現場や施設などからの教育関係のボランティア募集なども多数始まっており、それらと教職を目指す学生との橋渡しをするなど、各種ボランティア参加やインターンシップのセンターとしても機能させていきたい。

５．2019 年度の教職課程センター・相談室のサービス

1）教職課程センター　市ケ谷　利用内容

●教職関連の書籍／DVD／ビデオの貸出・閲覧

※一部貸出不可の書籍などもあります。

○中学・高校　教科書／指導書

○教員採用試験雑誌「教員養成セミナー」「教職課程」

○教員採用試験問題集／参考書

○教育関係新聞「教育新聞」「日本教育新聞」

○教育関係書籍／ビデオ／DVD　など

●学習支援ボランティア（学生ボランティア）情報の提供

●勉強会・学習スペースとしての利用

※教職課程実習室の利用に関しては予約が必要です。

●教職相談指導の実施

※事前申込を優先いたします。

実施日：月～木曜日　10：00～17：00

申込方法：kkc@ml.hosei.ac.jp 宛にメール、または教職課程センターに直接来室

＜相談内容＞

・就職相談・教員採用情報（公立・私立）

・教員採用試験対策（面接・論文・模擬授業対策）

・模擬授業実習（教育実習事前指導）

・教育実習指導案作成　など

●履修カルテの提出

2）教職課程センター 多摩相談室　利用内容

●教職関連資料・書籍の閲覧

○教員採用試験参考書・問題集

○教育関連書籍

○教員採用試験関連雑誌・新聞

○中学・高校　教科書／指導書　など

●教職関連の相談指導

※事前申込みを優先いたします。

実施日：月、水：社会科　木曜日：保健体育科　10：00～18：00

申込み方法：kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp 宛にメール、または多摩相談室に直接来室

＜相談内容＞

・教員免許取得、教職関連の進路相談

・教育実習準備に関する相談

・教員採用試験向け学習・準備に関する相談

・教員採用情報（公立・私立）

・学習支援ボランティア（学校・教育）ボランティア関連の相談

・スタディグループ（自主的学習活動）づくりに関する相談　　など

●履修カルテの提出

3）教職課程センター 小金井相談室　利用内容

●教職関連の書籍利用

○教員採用試験関連月刊誌（教員養成セミナー・教職課程）

○中学・高校　教科書／指導書（数学・理科等）

○教員採用試験問題集（自治体別過去問、教職教養、一般教養　等）

○教育関連書籍（教育法規、学習指導要領、数学、理科等）

○大学受験参考書（高等学校　数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B）

○教育新聞

○介護等体験、教育実習関連書籍

○研究団体学会誌（日本数学教育学会誌、東京都高等学校数学教育研究会誌）

●教職相談指導の実施

※事前申込を優先いたします。

実施日：月・火・金曜日　9：30～17：30（2019 年度から月・水・金曜日に変更）

申込方法：kkck@ml.hosei.ac.jp 宛にメール、または小金井相談室に直接来室

＜相談内容＞

・教員採用試験対策（「合格論文書き方講習」、「論作文添削指導」、「面接講習」、「個人面接指導」、「集団討論指導」、「模擬授業指導」、「教育法規講習」、「学習指導要領講習」、「各種採用試験関係書類添削」）

・教員採用情報（公立・私立）

・教育実習指導案作成指導

・教育ボランティア紹介（自治体、中学校、高校等）　など

●履修カルテの提出

教職課程センター・相談室の利用および教職相談指導の申込については、原則として法政大学教職課程を履修している在学生の方（大学院生・通信教育部生含む）および卒業生の方のみの利用とさせていただきます。一般の方のご利用はできませんので、ご了承ください。

※利用内容については、2019 年 4 月現在の予定となります。

4）教職課程センター・相談室開室日

教職課程センター・相談室	電話番号	開室日時
教職課程センター 〒102-8160　東京都千代田区富士見 2-17-1 富士見坂校舎 3 階	03－3264－5562	月～金 10：00～18：00
教職課程センター　多摩相談室 〒194-0298　東京都町田市相原町 4342 総合棟 1 階	042－783－2087	月～金 10：00～18：00
教職課程センター　小金井相談室 〒184-8584　東京都小金井市梶野町 3-7-2 西館 1 階	042－387－6359	月～金 相談指導員：月水金 9：30～17：30 （11：30～12：30 除く）

※夏季・冬季休業などで閉室の場合は事前にお知らせします。

※2019 年度の開室日時の予定となります。最新の開室日時につきましてはホームページ等で確認してください。

（第一部文責・教職課程担当 高野良一。なお、法政大学の教職課程履修学生に関するデータ等は全て、学務部学部事務課の教職担当者及び教職課程センターの事務担当者によって処理・提供頂いたものである。）